

ORIENTEERING JAPAN

O JAPAN

シンキングスポーツ・オリエンテーリング

'93/2

1993年〔平成5年〕2月10日発行
(毎月1回10日発行)

第10巻第2号 通巻第115号

昭和63年6月24日第三種郵便物認可





TSUKUBA

赤根林道

茨城県日立市・十王町

第15回筑波大学オリエンテーリング大会

1992年12月20日(日)

会場：中小路小学校

TEL (0294) 22-6344



コース・セッター

| | | |
|-------|-------|-------|
| 大平 洋介 | 芦名賢一郎 | 坂元 祐子 |
| 下飼 泰弘 | 本谷 治 | 川田 政道 |

UNIV. OF
TSUKUBA
O-MAP
1992.12

24



O·JAPAN もくじ

93/2月号・No.115

- = I O F のページ=
 - 「スウェーデンのエリート・オリエンティア
トレーニング活動後の死」
I O F 事務局長 レナルト・レヴィン.....4
 - 「スウェーデンにおける突然死：
事実と諸説」
フィン・ヨハンセン.....4-5
- = SQUAD のページ=
 - 「SQUAD の再組織について」
稲葉 英雄.....5
- = 投稿 =
 - 「OL のテライン、雑木林」
佐藤 征男.....6
- = イベント・リポート =7-8
 - 小野 盛光, 岡本 忠佳
福田 良雄, 森 善重
 - 「新春ミニ大会」
 - 「'93 K O L A 新春大会」
 - 「第22回山口大学
オリエンテーリング大会」
- = 全国 P C 愛好会 =
 - パーマネントコースりぼ〜と8-9
 - 中村 鉄男, 山田 茂夫
木佐木輝雄
- “情報あれこれ” “連絡協だより”12
“編集部より”

【今月の表紙】

1月10日、「第22回山口大学オリエンテーリング大会」に使用された、山口県美東町秋吉台のカルスト台地=本誌7〜8ページのイベント・リポート参照。

撮影：若梅 友行

【今月の地図】

昨年12月20日、茨城県日立市および十王町で開かれた「第15回筑波大学オリエンテーリング大会」の全ポスト図。



ストリーマー OLは危険なスポーツか?

オリエンテーリングの普及発展にとって妨げとなると思われることのひとつは、世間一般の人に「危険なスポーツでは？」との不安を抱かせることである。今、マスコミは、オリエンテーリングそのものの本来の魅力や世に伝えていない。オリエンテーリングといえば、家族で、歩いて、宝探しをするゲーム、との認識しかない。したがって、そのメディアから伝達を受ける一般の人達も、同等のイメージしか抱いていないであろう。森林の気をいっばいに吸い、孤独と戦い、逆に楽しみながら、静けさの中での精神集中と、自然の起伏をケモノのように躍動する、この魅力を知る人は少ない。そして、一旦事が起こると殊更に大きな報道があり、マイナス・イメージが広がる。次ページに掲載したI O F (国際オリエンテーリング連盟)事務局長、レンナルト・レヴィン氏の、エリート・オリエンティアの突然死に関する一文は、昨年末、各国のOL誌に転載された。この機関誌、ORIENTEERING WORLDはもちろんJ O Aにも届いている筈、日本の組織ももっと真剣に受け止めなければならぬのではないか。本場スウェーデンで、過去3年間にこのようなことがあったこと、全オリエンティアに公報し、注意を促すべきではないか。昨年10月号で編集者は、特に青少年オリエンティアの安全をより以上のものにする考えから、いろいろな提言を書いてみた。もっと詳述することが必要だし、これ以外にもいろいろ手を打たなければならないことがあるので、またI O F誌の次号ではスウェーデン医学グループの調査結果が発表されると思われるので、後日また特集的に扱いたい(2年ほど前に2・3人の方にご投稿いただいたことがあるが、特に医学関係の方にも専門的にご指導いただきたいし、日本のエリート・オリエンティアのご意見もお伺いしたい)。編集者が今、疑問に思っていることが幾つかあるので議論のテーマの一部に加えていただきたい。まず、前のJ O L Cが付保していた「賠償責任保険」はどうなっているのか。次に、J O Aはじめ各組織やクラブでは、参加申込書に添えて「誓約書」を受け取ることを考えるべきではないか、ということである。参加資格や実績云々(こんなものは、オリエンティア登録制にし、データを逐次打ち込めば良い)よりも、誓約書や保護者の承諾書の方がはるかに大切なものであろう。重ねてのお願いだが、10月号の編集者の提言や、今回のI O Fの記事に対し、ぜひご意見を。

流人

スウェーデンのエリート・オリエンティア トレーニング活動後の死

〔I O F 事務局長〕レンナルト・レヴィン

1992年度のワールドカップ参加者の一人であるメルケル・カールソンが11月6日の金曜日、24才の若さで突然亡くなったことを、ORIENTEERING WORLD誌は深い悲しみをもってお伝えしなければならぬ。ワールドカップ・シーズンの終りになってスウェーデン・ナショナルスコッド入りしたメルケルは、アメリカの最終戦に出場したエリートである。

トレーニング課業の後、クラブハウスでの集まりの時、クラブメイトの前で起きた彼の時ならぬ死は、過去3年間、オリエンティアとしては7回目の不慮の奇禍である。この高い数字は、発生が偶然ではないかもしれないことを示し、ス

ウェーデン・オリエンテリング連盟(SOFT)は対策を講ずることになった。

専門的知識をもった医学グループが委嘱され、250人のエリートオリエンティアが「危険率の高いグループ」として診断を受けることになった。この優先的なグループは広範囲にわたる健康診断を受けることになるであろう。それを取り囲む約3000人に及ぶスウェーデンの競技的オリエンティアは次のグループとなるが、これも同一の危険性を持つ者との判断から検査されるであろう。SOFTは次の告示があるまで、ナショナル・チームをトレーニングおよび競技会参加に関しての謹慎を申し渡した(例えば、最優先グループの検査の結果がでるまで)。

〔I O F 機関誌 'ORIENTEERING WORLD' 1992 No. 3/4 Novemberより〕

スウェーデンにおける突然死：事実と学説

デンマークのナショナルチーム・ドクターであるフィン・ヨハンセン氏から、世界中をニュース・ヘッドラインとして横切り、話題をさらったこの最新の情報をいただいた。後の号でスウェーデンの方式で行った調査の結果がもたらされる予定であり、オリエンティアたちが如何に練習すべきかのより適切な手引きとなるであろう。

TWARとは何か?

過去3年間に、スウェーデンにおいて15~30才の7人のオリエンティア(男6,女1)が不慮の突然死を遂げた。残念なのは、血液サンプルがその内の5人のものしか存在しないことである。これら5人ともに進行中のTWARの影響が見られた。TWAR(Taiwan Acute Respiratory disease=訳者注:直訳すると台湾急性呼吸器疾患)はクラミディア肺炎菌と呼ばれるバクテリアである。80年代以前には確認されなかったものであるが、現在ではわれわれは、それが多くの空気感染の一般的な原因であることを知っている。科学的な調査は、ほとんどの人間が少なくとも一生に一回はTWARに感染するというのを信じさせてくれている。TWAR感染は非常に一般的ではあるが、5人のスウェーデン・オリエンティア全てがかが死亡時にこの菌に感染していたことは、単なる偶然の一致である筈がない。

スカンジナビアにおける 一大調査プログラム

スウェーデン政府は、これらの若いスポーツ人たちの悲劇的な死へのより以上

の調査究明のため、600万スウェーデンクローネ(約1億円)を供した。これは多額に思えるかも知れないが、スウェーデンのウプサラ大学で行われている調査プログラムをカバーするには余りにも少ない。250人のトップランナーたちが、可能な限りの方法で、ランナーの健康・不健康を区別する方法を探し出す望みを抱いて、彼らの心臓をテストに供してきた。スウェーデンの医学者たちは、これらの調査がまとまる(リポートは1月末に予定されている)まで、これらのランナーたちにトレーニングの完全停止をすすめている。さらに3000人の競技者たちは、TWAR感染についての血液検査の段階にある。

デンマークとフィンランドではナショナル・チームが血液検査を受け、そして結果は安心できるものであった。ノルウェーでは、血液検査と心臓検診がこの冬期中行われようとしている。デンマーク、フィンランド、そしてノルウェーを通じて共通することは、感染のケースでは当然ストップがかかるものの、トレーニングが変わりなく続けられていることである。これは今始まった忠告ではない

最近の記者発表で専門医学グループは、多くのオリエンティアの突然死の裏にはTWARと呼ばれるウィルスが介在しているとの見方を述べている。7人全部が、呼吸器にある種の感染をしていたか、(ひきはじめの)流感の兆候があったか、または最近まであったか、と見たほうがよい。しかし、7人とも激しいトレーニングを続けたようである。

このような状況下で、SOFTは前記の検査の正式報告を待ちつつ、推薦した大切なエリートオリエンティアたちが、トレーニングやレースに出ないという落ち着かない日々、板ばさみとなり焦りを感じている。

が、スウェーデンの死亡例が、スカンジナビアのランナーのみならず、全世界のランナーたちに、その重みをあらためて強調しているようである。

オリエンテリングは 危険なスポーツではない!

何故スウェーデンのエリートオリエンティアたちだけがこの菌によって死亡にまで至ってしまったのか、たくさんの説があるが、事実にとどりに着くには重要なことである。

—この場合に用いている「エリート」という用語は非常に幅広く、毎週わずかな時間を割いて懸命にトレーニングする全てのランナーたちを含むものである。

—TWARは世界中の呼吸器疾患の一般的な原因になっている。現在まで、TWARが心不全(心臓停止)の原因であるとの科学的証明はたった2例しかない。

—スウェーデンの死亡例での他の原因として、他のバクテリアやウィルスが検出されていない。

—われわれはTWARの寄生動物(例えば、ダニ)がわかっていない。そして、この種の原因はノン・オリエンティアがオリエンティアと同程度の伝染性をもっていることから、ありそうもないと見られている。

アメリカの一大調査によると、心臓疾患が年間200,000人のスポーツ人の中の

SQUADの再組織化について

●稲葉 英雄

(1) いきさつ

SQUADは、1987年まで世界選手権(WOC)を目指す人間または世界選手権経験者の集まりであり、それなりに活発な活動が行われていた。しかし、1988年に世界選手権を目指すメンバーが、ナショナルチーム(NT)という新しい組織を作って独立した後は、SQUADのメンバー(NTとSQUADの両方に属していた一部のメンバーを除く)にとってNTは遠い存在となり、いつしか広報活動や会費徴収などが行われなくなってしまった。ちなみに、総会は1988年以降一度も開かれていない。現在は、ほんの2~3人のメンバーとSQUADのメンバーではない人達数人により、WOC直前の賛助会員の募集、SQUADジュニア合宿、SQUAD女子合宿などが、計画性に欠けた状態で行われている。

SQUADの規約第6条第2項には、「会員は、次のいずれかに該当した場合退会する。(1)会員が退会を希望した場合、(2)2年間会費を滞納した場合。」とあり、(2)によれば、現在のSQUAD会員は1人もいないことになる。

そこで、今一度SQUADを組織し、事務面で飽和状態にあるNTを助けていきたいと考える。

(2) 新生SQUADの目的

① NTを事務面、資金面で援助し、NTのメンバーがトレーニングに専念できるようにする。(注1)

【注1】ここでいう事務とは、NT会員への広報誌となっているNTブリテンの発行、NT合宿の準備運営、及び世界選手権(WOC)、ワールドカップ(WC)に参加する代表者の選考レース運営を含み、場合によっては、WOC、WCへのエントリー代行なども含む。

② 主に、将来WOCやWCに参加の可

能性があるオリエンティアに対し、高い技術を普及する。また、NTの活動を広報したり、エリートのランキングを発表したりすることにより、エリートオリエンティアの意識を高める。

(3) 新生SQUADの活動案

- ① NT名簿管理
② NT合宿準備運営

(4) 新生SQUADの組織案



(5) 新生SQUADの

メンバーになる資格

従来SQUADには、「世界選手権大会経験者が入会を希望する者、または総会の3分の2以上の多数により承認を得た者」という規定があったが、今後は、SQUADの目的に賛同し、実際にSQUADの活動に頻繁に参加できる人であれば、誰でもメンバーになれるようにしたいと考えている。

(6) 今後の予定

2月末までにメンバーになっていただける人を集め、全日本大会会場にて規約を承認し、形の上では、1993年4月1日より活動を開始したい。しかし実際には、今年の世界選手権代表者選考レースまであまり時間がないなど、すぐに活動を開始しなければならないところは、活動を開始していく。

以上がSQUADの再組織化についての稲葉英雄氏からのご提案です。文末に「メンバーになっていただける方がありましたら、稲葉英雄まで郵送または電話にてご連絡ください。なお、ご意見・ご質問等も大歓迎ですので、よろしくお願いたします。」との添え書きもあります。

ちなみに同氏の連絡先は
〒448 愛知県刈谷市下重原町2-115
サンシャインヒル 3A
☎0566-24-0959 です。
根本的には、JOAの機構づくりの問題であり、選手達に細部の事務手続きまでの負担をかけるべきではないという、編集者の意見もありますが、後日に。

【編集部】

ィアに主に発見されていることは単なる偶然の一致かも知れない。

より以上のことが分かるまで、われわれは、オリエンテリングは危険ではない、と結論するしかない。オリエンテリングのためスウェーデンに旅すること

もまた、危険な行為ではない。願わくばスウェーデンの調査が、われわれに早くある種の答をだしてくれることを期待するものである。

【I O F 機関誌 'ORIENTEERING WORLD'
1993 No.1 Januaryより】
訳=編集部

OLのテライン、雑木林

●佐藤 征男 (水戸OLC) = 文・写真とも

ぞうぼくりん
これは雑木林ではない、雑木林とよんでいただきました。

最近、マスメディアによって雑木林が話題になる。むかし、なつかし近所の仲間たちと遊んだ雑木林。冬は落葉により明るい林となり、OLのテラインに良く使われる。落葉を踏みしめ、跳ねとばしながら秋から冬にかけての、雑木林の中をコントロールをめざして走るのは壮快である。

最近、この雑木林をめぐる情勢の変化があまりにも大きく、OLのテラインの将来を案じつつ、落葉の下からお便りします。

ここで、関東地方における雑木林を森林生態の立場からその特徴をあげると、植物の分布に気候要素のうち気温が最も強く影響していることから、関東地方では、北方と南方の植物が接しており、この地域を南限とするオオウメガサソウ、ハマナス、ハマギクや、北限とするハマナデシコ、イソギク、マルバシャリンバイなど豊富な植物相を形成しており、種類数は約2100種に達している。

気候的には、暖温帯と冷温帯の両域を含み、シラカシ、スダジイを主とした常緑広葉樹林とブナ、ミズナラを主体とした落葉広葉樹林、およびその移行地域のクリ、コナラ、シデ類を主とした落葉広葉樹林の森林が成立しており、雑木林を構成する主要な樹木となっている。

雑木林は、昭和30年の終りごろまでは、家庭用の燃料として、薪やそだ、木炭、農家の堆肥や野菜栽培の温床に、あるいは家畜の敷料として利用されてきた。これらの雑木林は集落から近く、日本むかし話の『桃太郎』にでてくる、おじいさんは山へ柴刈りに、おばあさんは川へ洗濯に行く物語の里山地帯である。この地帯の森林の利用は、世界的にも特異な利用形態をたどってきた。

冬期における農家の主要な山仕事として、落葉採取や柴刈りが行われており、15年から25年に一度雑木林を伐採して薪炭として利用し伐採跡地は萌芽によって更新してきた。落葉は堆肥として、粗悪な関東ローム層とよばれる土壌の改良に1000年余りの長い長い努力の積み重ねにより、世界最高水準の豊かな土

壤に作りあげたのも、雑木林があったからできたのである。

昭和30年代の後半からこれらの状況がいっぺんに様代りした。燃料革命である。つまり、薪や炭を主要な燃料としていた時代から、電気、石油、ガスなどに、この流れは農山村にも急激に進み、炊事や風呂、暖房にいたるまで使われるエネルギーは大きく変わった。次に経済の高度成長とともに、農山村から都市へ都市へと人口が流れ、農業従事者の減少、トラクター、コンバインに代表される農業の機械化が進み、一方で有機質肥料(水田には落葉から作った堆肥や家畜の敷料を入れていた)の大量投入により土壌改良を実施した。長い時代が終わり化学肥料の大量投入の時代へと、さらには、季節に関係なくトマト、キウリ、キクなどが収穫される施設園芸へと日本の農業が大きく変わった。

このため、雑木林に薪作りや柴刈りに入る人もなく、したがって伐採、更新されることもなく放置されている現状にあります。O-MAPでは当然『白』表示のエリアが、シノタケの繁茂によりグリーンの割合が年々高まってきた。これは、日本農業、林業の変遷と相関関係にある。

雑木林は、森林として大気や水質の浄化、アオジ、ヤマガラ、ノウサギなどの野性鳥獣や、カタクリ、イチリンソウなど光の季節変化に対応した多様な林床植物の育成がみられるなど、存在していること自体が、森林としての機能をはたしていることを理解する必要がある。

地域の環境保全のためにも、雑木林は単なる未利用地ではない。今、雑木林は、しいたけ栽培や木炭生産、野菜栽培や煙草栽培の堆肥源として一部で利用しているが、これらは減少傾向にある。今後は、動物、植物の生活の場であり、森林の環境機能、森林の成立の仕組み等を理解する野外教育の場、自然体験の場として一歩進んだ利用がほしい。『利用』が進まなければ、放置か開発か二者択一の対象となってしまう。実際、ゴルフ場、住宅団地、工業用地などへの森林の転用が、最近10年間に森林面積の1割を越える地域がでるなど急速に進んでい



冬の雑木林



麦畑と雑木林
関東地方の代表的な冬景色



遊園地と雑木林
雑木林の新しい活用

る。

雑木林は、放置か開発の二者択一ではなく、森林所有者が、森林として維持できるように行政施策を講ずる必要がある。

私たちの遊び(ゴルフ場などのリゾート開発)のために、これほどまでに多くの森林を破壊したことは、過去にはなかったことである。

過去の文明は、森林を破壊することにより栄え、そしてその破壊ゆえに滅びてきたといわれている。私たちは、森林の成立のために、世界で最も気候的に恵まれた場所に生活しており、ややもすると森林の大切さを忘れてしまいがち。ぜひとも自分たちの環境を深く洞察できる人物を育てていかなければならない。そのためにも、雑木林を格好な場所として、多面的な利用を個人、行政のレベルで追求していかなければならない。私たちはOL競技をとおして、自然に深く親しみ理解力をつける必要がある。

新春ミニOL大会

- 1993年1月3日
- 愛知県名古屋市

平成5年の年明けの大会に相応しい暖かな日和に、役員も参加者もホッとした。東京箱根往復駅伝・復路の様子をラジオで聞きながら、名古屋市南部の大高緑地に到着。

役員は鈴木政巳・節子・淳史さんのご一家と土屋晴彦氏、名大の阿部君と記憶している。少人数運営であったが、大変スムーズに運び特にトラブルも無かった。

参加者は県下の人が多かったが、連続出場の神奈川の二瓶禮治さんのお顔も拝見できた。

公園の中の自然豊かな丘の部分で多用して、あまり道走りにならないようにセットした良いコースだった。それでも公園のため、比較的アタックが容易で、ミスが許されない厳しいレースとなった。なお、つるまいOLCの古沢ヒロシさん(43)は三重県民(HA2):3位、ASK(HAL):2位に引き続き2位に入り、好調ぶりをうかがわせた。

【結果】

HA 55名 4.4km 12分52秒

- ①瀬口 洋治 (OLC) 28'09"
- ②古沢ヒロシ (33歳OLC) 31'32"
- ③井上 健 (名大OLC) 34'02"

DA 9名

- ①三井 由美 (三河OLC) 36'26"
- ②鈴木夕紀子 (静岡) 37'10"
- ③古沢 久美 (33歳OLC) 45'58"

B 11名 N 4名

文責・小野 盛光



観光道路脇にも見られるドリーネ

'93KOLA
新春大会

- 1993年1月3日
- 大阪府松原市大泉緑地

1日・2日とも志摩スペイン村建設現場の当直であったため、3日は十分に楽しもうと、6時に伊勢を出発した。

地下鉄御堂筋線「新金岡」駅から徒歩約20分、マンションが立ち並ぶ中に大泉緑地がある。

朝早くから岸和田OLAの皆さんが準備しておられた。明昭山の会の笠原一郎さんとも出会って情報交換。スタート時間前には、お正月をOLで楽しむ人達で賑やかになった。

HAに参加したが、今まで経験したことがない、大変ユニークなものであった。第1エリアはコラちゃん(岸和田OLAのシンボルマーク…タマネギ)を探せ、第2エリアはフォトOでフリーOとラインO。第3エリアはポイントOLで、それぞれ早く回るタイム競争であった。公園内をフルに活用した取組み方に感心させられました。優勝はサロマ湖100kmマラソンにも参加された藤井節久さんでした。

ゴールしてからのゼンザイもおいしかった。来年も参加します。愉快に過ごせたことを感謝しております。

三重県伊勢市・岡本 忠佳

第22回 山口大学
オリエンテーリング
大会

- 1993年1月10日
- 山口県美東町・秋吉台

参加者の多くにとっては西年初の大会となった。第22回山口大会は前日より生憎の雨の大会となった。

全国的にも有名なカルスト台地である秋吉台の中央部をテラインとし、前半が森林地帯、後半を草原台地とはっきり分割。その何れにもカルスト地形特有の石灰の岩石が多く突出し、大小さまざまなドリーネが散在、そのなかには底の知れ

ないものもある、という微妙な地形をいたるところに作っていました。林は西日本としては希な走り易い雑生で、台地は見渡す限りどこまでも草場が続き、道に關係なく突っ切って走り抜けることができ、距離の割にスピーディなレースが展開されました。特に後半の草原では前後を走る姿が数多く見えるため、いやがおうでも一層の走力アップを求められたのではないのでしょうか。

一部、過去に作られた「沸水」のマップのリメイク部があり、林の中をスタートし草原でゴールするため、会場よりスタート地区へ、ゴールから会場へとは15分毎のバスで送られる運営が行なわれ、テラインを横切るバスはカーテンを閉じて走りまして、バス酔いしてしまったのは私だけではなかったようです。天候が良ければスタート地区でアップを兼ねてカルスト地形見物もできただろうが、折からの雨、待機する時間も容赦なく冬の雨は降りそそぎ、少しでも早くスタートしたい気持ちになってきて、ゴールまでが比較的早く、そして短く感じたのは天候に礼を言うべきか? 会場では“タコあげ大会”“もちつき大会”なども行なわれており、新春らしい風情のみられた大会でした。ぜいたくを言えば、会場とテラインがもっと近ければ良かったのに。

OLC吉備路・福田 良雄

歎々

素晴らしい運営・
そしてMAP

のOL大会に出会った
～走りたかった カルスト台地～
それは平成5年1月10日の
山口大学OL大会
でした

時間と身体があいたので第22回山口大学OL大会に参加して、一度走りたかったカルスト台地を思う存分走ることができて200%の満足度、そして表記のような素晴らしい運営とMAPに出会って満足度はさらに200%も上がっていました。

そんななかで、ただ残念だったのは、参加者が1000人に満たなかったことです。次回は何としても1000人を越えて

見たいものです。

では何が、どう素晴らしいか、を簡単に書いてみます。

1. 一糸乱れぬ運営

駐車場、受付、バス輸送などなど、スタッフはにこやかに親切に、さらに自信をもって自分の職務に精励されていました。

2. よくも、まあ、あの沢山ある岩石群をMAPに一つひとつ書いたものだねー。お蔭で迷わずに岩石群を走ることができました。ゴール後、スタッフに「あのカルスト台地で何回もOLをやったー」とお願いしました。

3. 従来から一度だけでよいから、秋吉台でOLをやりたいーと思っていましたが、今回それが果たされて満足です。どう満足かは筆舌に尽くせません。ただ、チャンスがあったら走って見ることをお勧めいたします。それは天国にのぼったような気持ちでOLが楽しめます。さらに非常にミニのロッククライミングも楽しめます。

4. カルスト台地、所々に大きな凹地があったり、なだらかなピーク、岩石群、道、それ以外は冬枯れの大草原、ホンコンのゲレンデ、更にカナダのゲレンデに似ていた。オ、素晴らしい私のカルスト台地。また走ったときはよろしくー。

5. 天気も味方してくれました。夕方からしつこく降ってきた雨も早朝も残り、早いスタートの人々を困らせたが、午前10時00分競技開始ごろは小雨もやんでくれた。お蔭で前半の森の中で大きな岩を見つけてロッククライミングもやってみたし、後半の樹木が一本もない台地では草が湿っており走りやすかったーと思っている。

いずれにしても素晴らしい大会でした。次回は文句なしに参加しよう。

山口大学OLCのみなさん、ありがとうございました。今後もよろしく。

今年は正月から、素晴らしい大会に出会って、良いことが続きそうだ。ありがとう。

朱雀OK 森 善重



パーマネントコース

りぽ〜と



□1992年11月1日(日)

岐阜県 No. 18 ~中 92-1~

「**飛騨馬車小坂反温泉組**」

【距離】 8.5 km

【ポスト数】 10本 O-MAP

- スタート：岐阜県小坂町「郷土館」
- 公共交通機関：JR高山線「飛騨小坂」駅から、バス（大洞・鹿山行き）「郷土館前」下車
- 地区取扱/問合せ先：小坂町教育委員会 ☎057662-3111 内線 172 または 郷土館 ☎057662-3610

岐阜県OL協会の兼松氏、山田氏、原田氏そして私の4名で調査。案内所は、郷土館前の駐車場にあります。マスターマップは少し見にくいので郷土館事務所にて写させてもらいました。写し終えて全員で出発。

スタート〜第①ポスト：道路、小道、小径へと歩いて行く大雨のために道が流されたのか砂防堤になっていて小径が途中から切れているが、そのまま直進すると小径に出られる。①〜②③ポスト：主要道路を通るので車に要注意。③〜④：地図のとおり道を進むと途中で区画整理をしており、一部地図と違うが、楽に歩ける道を進んで行けば元の道に出る。第④ポストは、4人全員が約5m通り過ぎてから振り返り見つけた。④〜⑤⑥⑦：途中は、主要道路を通るので車に要注意。⑦〜⑧⑨：一部は、サイクリングロードにもなっており、自然とのふれあいの道です。⑨〜⑩〜ゴール：湯屋温泉街を通り抜け小径を歩いてゴール。

コースは高低差が少なく、子供連れまたは家族でも充分に楽しめます。約1時間半〜2時間程でゴールできますし、ポストもきれいに管理されていました。

マップは郷土館にて購入（1枚、100円）ですが、水曜日は休館日となっています。コースを回った後は「郷土館」の見学。家族連れには喜ばれる「ウッディーランドふれあいの森」なかでもスリル満点の全長127mの「大スベリ台」。車で来ていれば、「がんだて公

園」の庭立を見て帰るのも良い。イベント、その他の情報はポータル通信(FAX 057662-3595)で。

リポーター：

岐阜県各務原市蘇原村雨町1-15
中村 鉄男

□1992年11月1日(日)

岐阜県 No. 8 ~山 92-1~

「**下呂温泉**」

【距離】 8.5 km

【ポスト数】 10本 O-MAP

- スタート：下呂町「下呂町民会館」
- 公共交通機関：JR高山線「下呂」駅下車、約1 km。
- 地区取扱/問合せ先：下呂町教育委員会 ☎05762-5-2252

岐阜県OL協会の兼松氏、中村氏、原田氏そして私の4名で「飛騨小坂」PC調査後、その足で下呂温泉PCに向かう。案内板には下呂町民会館前にありますが、マスターマップは取りつけられていない。マスターマップは下呂町民会館内の事務所内にあり、マップもここで購入（1枚、100円）。マップはまだ250枚位ありました。

今回は、①番から⑩番まで順番に回らず、変則のコースをとって見ようということになった。①番、②番をとり⑤番へ、そして⑤番から東に約400m進み、そこから⑦番に行く小道（中部電力の高圧線保全用の道）に入った。しかし、途中から道が無くなってしまい、⑦番より西に約700mにある⑥番付近に出てしまう。⑥番をとり⑦番へ向かう。⑦番は草に埋もれて見づらい。後は⑧、⑨、そして③、④および⑩番をとりゴール。やはりパーマネントコースは、正規のルートをとるべきだと思いました。ポスト文字はほとんど読めますが、特に①、⑥番はサビ等で傷んでいました。なお、下呂町民会館には臨時休館日がありマップ購入できません（もちろんマスターマップも

全国PC愛好会

見られない)ので、コースに行く場合は必ず電話確認をしてください。

帰りに、JR「下呂」駅近くの温泉銭湯に入り、疲れをいやして帰途につきました。

リポーター：
岐阜県羽島郡岐南町野中5-17

山田 茂夫



□1992年12月20日(日)
長野県 No. 21 ~木 92-16~

「車井沢C」
[距離] 8 km
[ポスト数] 8本 O-MAP

JR信越本線「信濃追分」駅下車。駅前には1軒の店(遠山商店)と少数の人家があるだけ。

MAPはその遠山商店にあるが、なぜかマスターは置いていない。遠山商店は日曜日が定休日なので要注意。駅前にマスターの掲示板があるが、O印とNoは消滅。MAPの表紙などに、松葉タクシー営業所にもMAPがあるように書いてあるが、実際には置いていない。これは営業所に電話をして確認した。

私が行った日は日曜日だったので、遠山商店は戸を閉めて休み。掲示板のマスターは読めず。この程度で参ってはPCは歩けない。こんなこともあるかと富田氏からコピーMAPを載せておいた。富田氏に感謝しつつスタート。

MAPは1:20000だが、精度は97%ぐらい。コースは人家30%、畑20%、別荘地50%で、標高差は0mに近く、すべて舗装道路。

難解ポストは③で、追分交差点から南へ20mほど行った空き地に倒れていた。軽井沢3コースのポストは小型なので、頭が落ちたり倒れたりし易い。⑥→⑦は昔の追分宿で、その雰囲気がいささか残っている。

CコースのMAPは、軽井沢駅・中軽井沢駅の観光案内所にもある。

(遠山商店 ☎0267-45-5717)

□1992年12月20日(日)
21日(月)

長野県 No. 19 ~木 92-17~
「車井沢A」
[距離] 12 km
[ポスト数] 10本 O-MAP

JR「軽井沢」駅下車。

MAPとマスターは軽井沢駅・中軽井沢駅の観光案内所にある。MAPは1:20000のO-MAPで95%ぐらい。

コースは舗装道路40%、別荘地30%、畑20%、人家10%で、標高差は0mに近い。ポストは小型ながら10本とも健在。特に難解ポストはないが、④は陸橋の上り口で見落とし易い。⑥と⑦の間に国民宿舎「軽井沢高原荘」がある。私はここへ泊して3つのコースを歩いた。(軽井沢高原荘 ☎0267-48-2111) 中軽井沢駅観光案内所 ☎0267-45-6050)

□1992年12月21日(月)
長野県 No. 20 ~木 92-18~

「車井沢B」
[距離] 10 km
[ポスト数] 9本 O-MAP

JR「中軽井沢」駅下車。

MAPは駅の観光案内所(改札口を出て右へ6mの売店の前)にある。駅を出て左前方に掲示板があり、中のマスターは明瞭。MAPは1:20000のO-MAPで精度は97%ぐらい。

コースは別荘地50%、人家20%、山裾30%で、標高差は30mぐらい。ポスト②の頭が落ちて6m先に転がっていた。⑥→⑦の日陰には残雪があり、旧軽の通りは夏の賑わいさながらのようで、木枯らしが空しく吹き抜けていた。

(中軽井沢駅観光案内所 ☎0267-45-6050)

リポーター：

〒185 東京都国分寺市泉町3-5-6-104
木佐木 輝雄



パーマナントコース
竹青 幸段
ロ b p ロ

(1) 長野県「乗鞍高原」
リゾート開発のため撤去されている②を新設し、同時に①⑨⑩の位置を変更する(1993年夏より)。

安曇村教育委員会 ☎0263-94-2301

(2) 長野県「五竜とおみ」
新ポストを5本追加して合計10本とし(現在は5ポスト)、神城駅付近にもMAPとマスターを置く(1993年春より)。

信州塩嶺高原開発 ☎02617-5-2101

(3) 東京都「三宅島」
新コースが誕生する。MAPとポストはすでに完成している(1993年3月頃より)。

三宅村役場観光課 ☎04994-6-1111

(4) 神奈川県「横浜金沢」
⑥→⑦→⑧が通行不可能となり、現在休止中。再開の見込みは不明。

[1992年11月 県教委の回答]

(5) 静岡県「下田」
廃止され、MAPも下田駅に置いていない。

[1992年12月 伊豆急行の回答]

(6) 茨城県「阿見」
2年前より休止になっていたが、廃止を申請中。ただし、MAPはまだ公民館に置いてある。

[1992年11月 中央公民館の回答]

【文責】

〒185 東京都国分寺市泉町3-5-6-104
木佐木 輝雄

植物性

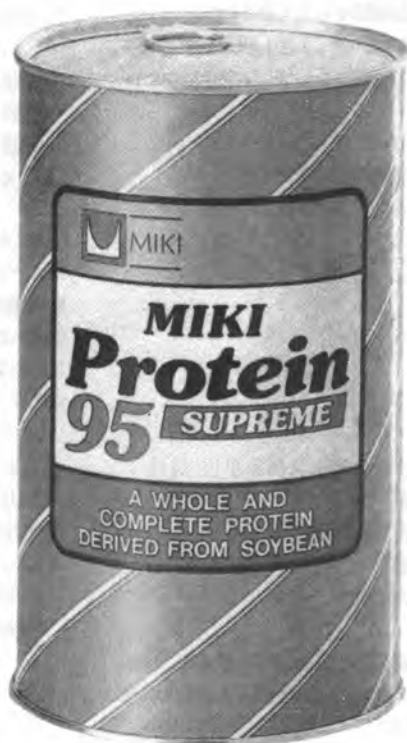
- 持久力・体力……健康の維持
- ノンコレステロールです

プロテイン95

- 皮膚・毛・目・爪・筋肉組織・分泌腺・血・
- ホルモン等すべてプロテインで出来ている

レシチン

- 脳神経系統内分泌腺及び心筋成分
- コレステロール分解



● お問合わせはO・J・A・P・A・N編集部まで

オリエンターリング地図印刷

社内報 団体・サークルの機関紙 記念誌

PR誌 学校新聞 句集 歌集 詩集

あしび印刷 有限会社

〒220 横浜市西区西戸部町3-298

神奈川県教育会館前

☎045-231-5970 (代)



調査期間 1992年3月～7月

| | | | | |
|-----|-------|-------|-------|-------|
| 調査者 | 佐々木 正 | 佐藤 宏昭 | 松田 泰典 | 浅田 幸江 |
| | 芦名賢一郎 | 井口 隆之 | 岩河 聡 | 大平 洋介 |
| | 奥山 敦子 | 片山 治 | 川本 麻子 | 小林 俊弘 |
| | 坂元 祐子 | 下綱 泰弘 | 諏訪 雅貴 | 寺澤 泰明 |
| | 中島 千絵 | 長野 孝司 | 福田 佳子 | 堀川 園子 |
| | 松本由希子 | 荻 剛一 | 本谷 治 | 梶山 貴浩 |
| | 八尋 弓枝 | 角 枝実 | 川田 政道 | 菊澤 正徳 |
| | 小海 則人 | 並木 繁行 | 室伏 佳子 | 安良 和寿 |

作 図 者 本谷 治

調 製 R.M.O.サービス

印 刷 陶武揚堂

この地図は、茨城県発行の5,000分の1森林基本図及び、日立市発行の25,000分の1十王町発行の10,000分の1都市計画図を基に調査・作図したものである。

| | | | |
|--|----------------|--|--------------|
| | 主要道路 | | 池・沼、小さな池 |
| | 道路・建設中の道路 | | 湧水点、井戸、貯水槽 |
| | 道 | | 渡れない河川、せき、河川 |
| | 小道 | | 細い水路、橋 |
| | 小径 | | 溝・季節的水路、細い湿地 |
| | 不明瞭な小径 | | 倒木・切株、しいたけ床 |
| | 植生界(明確、明瞭) | | 立入可能の開けた土地 |
| | さく(通行不能、可能) | | 立入禁止の開けた土地 |
| | トンネル | | 果樹園 |
| | 建物、建物跡、ビニールハウス | | 民家等の敷地 |
| | 高塔、小塔 | | 渡れない湿地 |
| | 墓、墓地 | | クリアリング |
| | ほこら、炭焼窯跡 | | 荒地・植林地・伐採地 |
| | 岩(大、小)、岩石群 | | 半ば開けた土地 |
| | 岩石地 | | 木のある湿地 |
| | 岩がけ、土がけ(通行可能) | | 不明瞭な湿地 |
| | 通行不能のがけ | | 開けた湿地・廃田 |
| | テラス、乾いたみぞ、きれつ | | 走行可能 |
| | こぶ(大、小)、土塁 | | ゆっくりとしか進めない |
| | 凹地、小凹地、穴 | | 通行困難 |

縮尺 1 : 15,000
等高線間隔 5 m

情報あれこれ

□長野県オリエンティング協会よりお知らせ

1. 行事予定

(1) 第14回長野県OL大会

とき : 平成5年10月2日(土)・3日(日)

ところ : 信州晴ヶ峰高原

Map : 1/15,000 New map 県協会・RMO-service 共同作製

※400名限定大会。参加者全員宿泊してください。1泊3食付・大会参加料・傷害保険料等込みで¥5,000を予定。4月より、先着順にて受け付けます。ご期待ください。

(2) 第1回日本学生Short-OL選手権大会

とき : 平成5年10月24日(日)

ところ : 信州伊那高原

Map : 1/15,000 New map RMO-service (長野)作成

※併設大会を検討中。詳細は後日発表します。

(3) オリエンティング3級指導員認定講習会

とき : 1次 平成5年7月17日(土)・18日(日)

2次 10月2日(土)・3日(日)

ところ : 国立信州高遠少年自然の家

※昨年は講師に村越真氏、山川克則氏、吉沢文雄氏をお招きし、県内外から20名が受講しました。皆さん奮ってご参加ください。



2. 合宿・練習会情報

(1) 駒ヶ根高原 (Map 1/15,000 在庫大量)

県内で最もポピュラーな高原テライン。第1回日本学生 Short-OL大会の近隣テラインで、対策合宿に最適です。

(2) 千人塚 (Map 1/15,000 在庫多)

中央アルプス・フラワー道路が7月に開通し、「駒ヶ根高原」からのアクセスが良くなります(約15分)。

(3) 山吹高原 (Map 1/15,000 → 日本学連より購入)

1986年日本学生選手権大会個人戦のテライン。昨秋よりリザーブが解除されました。中央に伊那谷中段道路が開通し、テライン中央部に駐車場もできました。「駒ヶ根高原」より中央高速で約20分。

(4) 国立信州高遠少年自然の家 (Map 1/10,000 New Map)

施設・設備が充実。1300mの高原地帯では、四季折々の変化が楽しめます。事前に少年自然の家へ問い合わせてください (TEL 0265-96-2525)。

以上、長野県OL協会からのお知らせでした。

問合せ先: TEL 0263-28-5127

元木 悟 (文責)

■言卜幸反

海老原利彦氏(茨城県OL協会理事長)が、2月1日急性心筋梗塞のため永眠されました。享年63才でした。体力づくり運動およびOLの仲間として、ご冥福をお祈りしたいと思います。

社団法人健康・体力づくり事業財団 永井 一徳

連絡各協だより

□“中国四国九州連絡会”のご案内

恒例、春の連絡会を第19回全日本OL大会(鳥根県)の際に開催いたします。関係のオリエンティング組織の有志、およびオリエンティア個人の、ご参加をお願いいたします。

記

- 日時: 3月21日(日) ゴール後~表彰式の間 (13:30~14:30の予定)
- 場所: 大会会場の男子更衣室の一角に表示
- 会費: 無料
- 議事: (1) 中四九のオリエンティング行事の日程表(新年度分)
(2) 中四九ランキングの表彰と新年度について
(3) その他
- 資料: 所要部数だけ当番幹事が準備いたしますので、3日前までに、出席予定者の氏名を、電話 08548-2-1405 財間幹事までお知らせください。(ご提案いただく方は、なるべく5日前までに原稿をFAX=上記電話と同番号へ送信してください。)

文責: 財間 定義

□山形県オリエンティング協会事務局の変更

この度、山形県オリエンティング協会は、前事務局長・浅野泰三氏の病氣辞任により、下記のとおり変更いたしました。なお、山形県ははまだJ.O.Aへの加入金工面の見通しがかたず、OL活動が滞っている現状ですが、平成9年にはネンリンピックの開催県に決定いたしましたので、オリエンティングが実施種目となるように関係機関に働きかけたいと思います。皆様の絶大なるご支援をよろしくお願い申し上げます。

【新事務局】

〒999-37 山形県東根市大字東根乙66-10

武石 雄市 気付

山形県オリエンティング協会

編集委員会より

◆先ず「訂正とお詫び」から。先月号のO-FORUM欄に掲載の『12月号の「東日本大会の速報について」を読んで』の投稿者名が「西山一徳」さんになっていましたが正しくは『山西一徳』さんでした。お詫びして訂正いたします。◆2月の編集者は、3月のクラブ大会の地図作成、税務申告と、O-関係だけでも手一杯。これを言い訳に、今月号は12ページで発行させていただきます。《流人》

O-JAPAN

発行人/田口 昭子

* 購読料 年間4月~3月 ¥3,000

* 編集責任者/田口 肇

〒233 横浜市港南区日野南7-9-5

* (高校生以下) ¥1,800

* Chief Editor: Hajime Taguchi

TEL. 045-891-7004 FAX. 045-891-2500

* '92.12月~'94.3月 ¥4,000

* Editorial Address:

(Annex) 0287-77-1977

* 1部あたり頒布価格 ¥250

* 7-9-5, Hino-minami, Kohnan-ku

郵便振替口座/横浜7-46870

(加入者名) O-JAPAN 編集部

* Yokohama, 233 Japan